整形外科の歩みと未来

檀　浦　智　幸

キーワード：岡山大学整形外科；島根大学整形外科；一般的疾患・外傷
（雲南市立病院医学雑誌　2019; 16(1): 31-33）

20年の歩み

この20年は、昭和62年に岡山大学整形外科学教室から赴任された松井譲先生のもとに、同教室より、ほとんどが卒後数年の医師で２年間程度であったが、１～３名が常に派遣されてきた。以下に平成10年以降に入職した医師を赴任順に記す。藤井基弘先生（平成10年）、宮越浩一先生（平成10年）、小林豊先生（平成11年）、中西一夫先生（平成12年）、森谷史朗先生（平成13年）、田中日出樹先生（平成13年）、宮本正先生（平成16年）、大畑範英先生（平成17年）、沼本邦彦先生（平成18年）、金子真也先生（平成19年）、那須義久先生（平成20年）、小生（平成21年）、西山彰博先生（平成22年）、山本乃利男先生（平成28年）、伊達宏和先生（平成31年）。晴れの国岡山からは遠く、他県から若い医師を雪の積もるこの地に派遣することは大変であったと想像に難くないが、当地の整形外科医療を絶やさないために派遣を続けられた同教室の井上一教授、尾崎敏文教授のご高配と、松井先生の後輩指導の賜物であり、敬意と深謝を捧げたい。ちなみに当院勤務を経験した医師には雲南の地と当院を懐かしむ者が多く、平成21年の松井先生の還暦を祝う会には森下嗣威先生（昭和63年赴任）以下ほぼ全員が集まり旧交を温めた。また宮越先生はリハビリテーション科医となり千葉県の亀田総合病院に勤務しながらも、岡山大学総合リハビリテーション部千田益生教授と毎月交代で平成30年度末までの長きにわたり当院の非常勤勤務を続けてくださった。お二人にもお礼を申し上げたい。

島根大学整形外科学教室からもご協力いただき、過去には勝部顕一先生（平成16年）、江田有史先生（平成16年）、山口英敏先生（平成17年）が赴任され、一度は５人体制となっていたが、折しも臨床研修医制度の発足に伴う医師不足のあおりを受け、一旦派遣が中断した。当院全体の医師がほぼ半減したときで、平成18～19年には３人体制であった。当科は一般疾患のみならず、人工関節や脊椎などの専門手術も行う上に救急も受けるため、減員により非常に多忙を来たしたものと思われる。平成20年からは出雲徳洲会病院から三木尭明、孝人両先生を迎えてようやく５人体制となり、三木先生が専門とする脊椎手術、人工関節手術が増加した。小生が赴任したのが平成21年であり、松井先生と若い先生、小生、三木先生父子の３列で手術を進めることができたため、手術件数が最多の853件を記録した（**表１**）。

その後、当院は医学生や研修医の研修先となってきたが、その中に整形外科志望の研修医も少なくなく、当科の力になっていただいた。腱鞘炎や骨折などの一般的な疾患・外傷を初診から手術、さらに術後、退院後も見届ける経験は高次病院ではなかなか得られないため、評価いただけたと思われる。なかでも佐藤匡也先生は研修医を終えた後、再び当科に戻ってきて活躍してくれており、幸甚の至りである。

数年固定メンバーだった当科もこの３年間に大きく変わった。まず平成29年度末に三木先生が辞められ、平成29年９月に出雲市立総合医療センターから西英明先生が副院長として転任された。島根大学整形外科内

雲南市立病院整形外科
著者連絡先：檀浦智幸　雲南市立病院整形外科〔〒699-1221 雲南市大東町飯田96-1〕
E-mail: hospital-soumu@city.unnan.shimane.jp

尾祐司教授と西先生が同期ということもあり、同教室からの恩恵をいただくことが増えた。平成30年度末に山本先生が辞められたが、島根大学整形外科教室から平成30年４月に佐藤先生、平成31年４月に梅本幸葉先生が赴任された。若手医師を二人も派遣していただき、内尾教授を招聘した手術も行われるなど、今や島根大学のご助力がなくてはならない状況であり、そのご厚情にこの場を借りて深謝申し上げたい。さらに平成31年３月末に32年間の長きにわたって当院に尽力された松井先生が退職され、現在は木曜日の非常勤外来とカンファレンスでのご意見番を続けていただいている。平成31年４月には西先生が院長に就任され、伊達先生も赴任され、島根大学リハビリテーション科の馬庭壮吉教授にも毎月１回の非常勤勤務に就いていただいている。

新本館棟完成による現状と未来への思い

西先生は院長業務や飯南病院、掛谷診療所の外来兼務など院外業務も多く、多忙を極めておられる。脊椎手術を担当する小生自身の頚髄症が徐々に進行してご迷惑をおかけしてきたが、昨年末に手術を受けようやく人工関節以外で２時間程度の手術執刀が可能となった。人工股関節置換術は伊達先生が、人工膝関節置換術は伊達、西山両先生が担当し、伊達先生により、鏡視下肩腱板手術、鏡視下膝靱帯再建術、鏡視下半月板縫合術などの関節手術も可能となったため、当科で可能な手術が増えた。関節リウマチはリウマチ内科の石部陽二先生が整形の外来で火曜日に外来を担当してくださっており、骨軟部腫瘍の初療は小生である程度可能なため、先天性股関節脱臼に代表される小児整形外科領域が対応困難という状況である。高齢化地域である雲南圏域では主に骨粗鬆症と骨折、変形性関節症、脊椎変性疾患が治療対象であり、松井先生の置き土産となった当科史上最も充実した６人の常勤医で診療していて（**図１**）、現状で多くの方に貢献できるものと自負している。

表１　整形外科手術件数の推移

	総手術数	外傷（抜釘含む）	人工股関節	人工膝関節	脊椎
平成17年	555	245	4	34	21
平成18年	596	269	10	23	23
平成19年	546	252	3	21	14
平成20年	753	275	25	62	75
平成21年	853	350	30	91	92
平成22年	787	319	25	95	98
平成23年	804	359	22	64	124
平成24年	692	277	13	73	71
平成25年	618	260	15	68	58
平成26年	557	229	25	55	66
平成27年	524	232	33	50	54
平成28年	505	211	25	55	36
平成29年	521	262	16	32	29
平成30年	495	271	14	32	11

図１　整形外科スタッフ

Present status and future perspective of the department of orthopedic Surgery in Unnan City Hospital.

Tomoyuki Dan'ura

Department of orthopedic surgery, Unnan City Hospital
Correspondence: Tomoyuki Dan'ura, MD, PhD, Department of orthopedic surgery, Unnan City Hospital〔96-1 Daito-cho Iida, Unnan, Shimane 699-1221, JAPAN〕
Telephone: 0854-47-7500 / Fax: 0854-47-7501
E-mail: hospital-soumu@city.unnan.shimane.jp